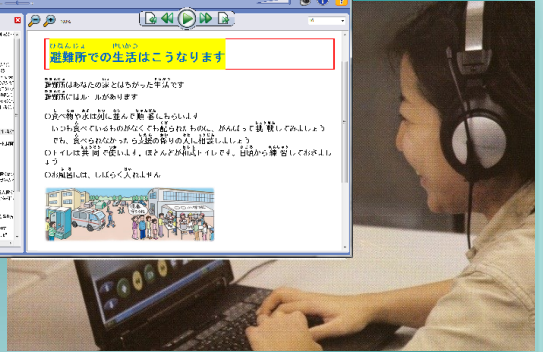
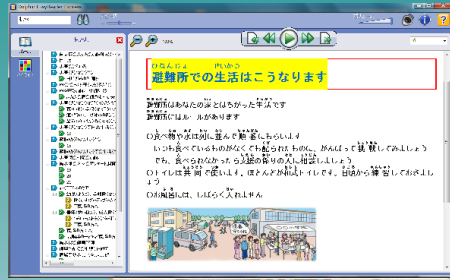


災害時要援護者支援のあり方に関する研究

自閉症者の災害時避難に関する研究 (平成15~)

- ・川越市の自閉症者施設における火災避難訓練の効果を記載しました(平成18年度)
- ・日本自閉症協会に協力し、「自閉症の人のための防災ハンドブック」を編集しました(平成20年度)
- ・東日本大震災で活用された「自閉症の人のための防災ハンドブック」を日本語と英語でDAISY化しました(平成24年度)
- ・平時におけるマルチメディアDAISYを使った道順記憶(自宅から避難所まで)教習の効果を知的障害高校生で実証。



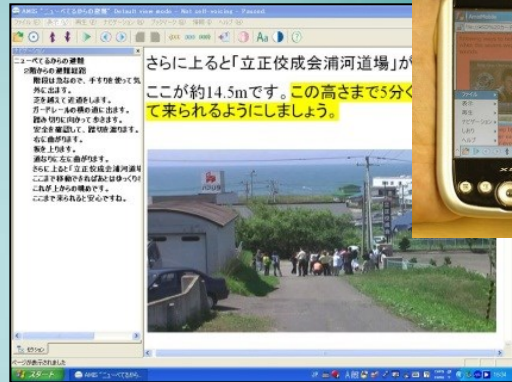
北海道浦河町における災害避難訓練マニュアルの開発と地域変革 (平成15~)

北海道浦河町役場、(社)浦河べてるの家の精神障害者、自治会と共同して、災害避難マニュアルDAISY版作成・防災学習会、避難訓練を実施

→1) 平成20年度からは、べてるの家が主体となり、厚生労働省の助成金を得て、災害避難マニュアルDAISY版作成、防災学習会、避難訓練を継続。「4分で10m登る」は、東日本大震災でも実証。

2) 浦河町民とべてるの家メンバーとの接点が増え、災害避難時における共通困難が意識化された

3) 町役場、自治会、研究者とべてるの家の間の応援体制を記載した(平成24年度)



マルチメディアDAISY版避難マニュアル(windows版、iPadでも表示可能)

所沢市における災害時要援護者個別避難計画の作成 (平成24年~)

1) 所沢市役所障害福祉課の協力を得て、市内の5通所施設、5当事者組織に調査を実施、412名の回答と50名の個別避難計画作成モニターを得た。

- ・要援護者名簿登録者は25%(市内全体では1割)
- ・避難したい場所は「最寄りの一次避難所」44%であったが、7割は一人で避難できなかった。わからないも19%であった。
- ・地域の避難訓練参加経験者は25%で、参加しない理由は「訓練に本人が参加できないこと」38%であり、要援護者に配慮した訓練への参加希望は47%であった。
- ・所沢市地域防災訓練に参加し、課題解決を検討中。



赤丸は一次避難所、青四角はモニターの家を示す。

国内外の先行事例調査 (平成24年度~)

- 1) 災害時要援護者支援に関する先行事例調査
 - ・埼玉県所沢市荒幡の隣組による安否確認、愛知県名古屋市のAJUIによる通所利用者の自宅への安否確認、東京都の重度重複障害者による自助・共助・公助体制、米国緊急事態管理庁FEMAにおける災害時要援護者支援(平成24年度)。
 - ・愛知県名古屋市の町内会による準備、社会福祉協議会、マンションなどによる準備(平成25年度)。
- 2) 公的文書に見られる災害時要援護者支援の変遷を調査(平成25年度)



防災訓練にて: 左橋の要約筆記者は画用紙にアナウンス内容などを記入し、ろう者(バンダナ着用)に見せる。右端の全盲者の右にはガイドヘルパーが同行。中央では、肢体不自由者が介護用のトイレの安定性を確認中。

